



大 船 山

静けさづくり……場を読む力と他を思いやる心

校長 細江 幸次

4月に入るまでは雨模様の天気が続き、肌寒さを感じるほどでしたが、4月に入った途端、一気に春(いや、初夏といってもいいくらい)を迎えた感があります。上矢作小学校は新1年生6名と転入職員4名を迎え、令和6年度がスタートしました。今年度もよろしくお願いします。

この数年、上矢作小学校では様々な活動において「静けさづくり」という取組を大切にできています。これは主に全校が集まったり、活動したりする場(集会、掃除、集団下校時 等々)において、個々の意識のもとで意図的に静かな時間と空間をつくり出すという取組です。

従来、学校では大人数が集まる場ではいくらか気が緩むのか、ザワザワとした雰囲気になることがよくありました。個人レベルではそれほど気にならない話声でも、全体となると結構な音量となり、本来行うべき活動の内容が始められなかったり、十分に内容が伝わらなかったりします。そうすると先生なり、その活動を進める担当者(児童会の役員や6年生)が「静かに!!」等と怒鳴り声にも近い声で静かにさせようとします。一方、上矢作小学校では個々が静かな空間と時間をつくり出すことに意識を向けることを大切にしてきました。この意識が全体で揃うと、話している側が話しやすい、聴いている側が話の内容がよくわかる時間と空間ができあがります。そうすると全体が静かなまでの空白の時間がなくなり、活動時間が予定していたよりも早く終わることも増え、自分たちの自由にできる時間が増えるという副産物も出てきます。また、授業場面では自分自身で考える場において静けさは必要不可欠なものであり、真剣に考えている者にとっては最大の支援になるともいえます。今後、学校において地震等の緊急事態が起きたときの安全確保に大きな効力を発揮すると考えています。

学校の日常では各々の学年がそれぞれの場所で学習活動を行っています。一応、チャイムという区切りの合図はありますが、少し早く活動が終わったり、教室移動をしたりすることが日常的に行われています。自分(たち)だけのことを考えれば、緊張感が緩み、おしゃべりしながら過ごしたいところですが、ほんの少しまわりに気を配れば、迷惑はかけられないという思いが優先され、静かに移動することができるようにもなります。このようなメタ認知(自分自身を客観的に見る)的な力は今後の成長において大切にされるところであり、自分の周りと良好な関係を築いていくためには必要になってくる力です。そんなことを意図しながら上矢作小学校の活動の基盤となる「静けさづくり」に今年度も力を入れ、磨きをかけていきたいと考えています。

常勤・非常勤18名の職員が全力で41名の児童の健やかな成長を指導・援助していきます。保護者、地域の皆様におかれましては、これまでと同様、上矢作小学校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いします。

転出入職員の紹介

転出職員	転出先	転入職員	旧所属
教頭:後藤 正英	瑞浪市立瑞浪北中学校	教頭:遠山意保子	東濃教育事務所
教諭:原 誠	東濃教育事務所	教諭:金子 郁子	長島小学校
教諭:中嶋 捷太	武並小学校	教諭:島倉 健吾	山岡小学校
用務員:浅井 克成	退職(SSとして東野小)	用務員:秋山茂登雄	新規採用

SS: スクール・サポート・スタッフ

